

春 告 草

第 108 号 平成 30 年 6 月 6 日 進路指導部発行

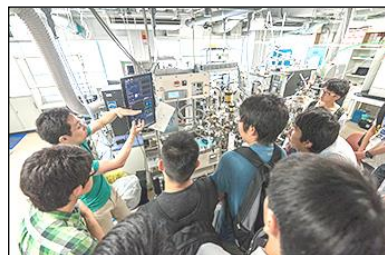
オープンキャンパスへ行こうよ！事前申し込みが必要な大学も

7 月に入るとオープンキャンパスが各大学で開催されます。オープンキャンパスは、大学を知ると同時に、未来の自分や夢と同じくする同志との出会いのチャンスでもあります。募集受付がまもなく始まりますが、その前にオープンキャンパスを進路探求・選択にどう活かすのかなどについて、書いてみたいと思います。

■オープンキャンパスとは？

オープンキャンパスは志願者数の増加を目的として 1980 年代後半に一部私大で行われたのが始まりとされています。少子化で入試の競争率も下がり、国立大学の法人化が話題になってきた頃、国公立大や難関私大でも広く行われるようになりました。最近では入学後のミスマッチを無くすことも実施目的のひとつとなっています。若い先生に何うと、学校から貸切バスに乗って国立大のオープンキャンパスに出かけたお話をされていましたが、私のような年配者は、大学情報は専ら「蛭雪時代」でした。インターネットなどをはじめいろいろな方法で各大学の詳しい情報を入手できる現在の環境は羨ましい限りです。音声付の大学紹介ビデオや模擬授業なども大学のホームページで見ることができますが、それでも実際にそのキャンパスにでかけてみると、メディア情報だけでは得られない「大学」を感じることができるものです。大学図書館や研究室、教室などの施設を見学したり、在学生の生の声を聞くことで、何としてもこの大学に入ってやるぞと俄然ファイトが湧いてくることもあるでしょう。

4 年生、5 年生は夏のオープンキャンパス参加とレポート提出が課題となりますが、課題だからと仕方なしに行くのではなく、自分の進路探求・選択の為に積極的にでかけてもらいたいと思います。



東工大オープンキャンパスの特徴は研究室見学や体験授業。理工系大学ならではの企画だが、事前申し込みが必要である。

■オープンキャンパスに行く意味は？

「先輩にある程度聞いてはいたけれど、実際に行ってみたら違った」「インターネットで情報は得ていたけれども、まだ分からないことがたくさんあった」など、学校についての情報と現実とのギャップが大きいことはよくあるものです。

オープンキャンパスに行く意味は、皆さん自身が体験し、自分の頭で学校を判断することにあります。自分自身だけが、情報と現実とのギャップを埋めることができるのです。そしてその判断により、さらにその大学への進学意思が高まるのか、別の学校のことも考えるようになるのか、その後の選択も変わってきます。

オープンキャンパスは「ただの学校見学」ではありません。進路を考える材料を自分自身で追い求める場です。オープンキャンパス参加でその後の選考にメリットがある大学も中にはありますが、一般的には参加したからといって入学に有利になるわけでも点数が取れるわけでもありません。どうするかはみなさんの意思次第。少しでも悩む部分、ぼんやりとした部分があるのなら、ぜひ一歩踏み出してオープンキャンパスに参加してみましょう。「実際見て、聞いてみたらすっきり！」を実感できるのも、オープンキャンパスのメリットです。



一橋大兼松講堂 大学紹介や学部説明会はこの講堂で行われる。今年は 7 月 29 日（日）に実施される。詳細、申し込み方法などは 6 月中旬に同大ホームページに掲載される。

■オープンキャンパスで行われるイベントは？

昨年度の一橋大学オープンキャンパスの内容は右の通りです。オープンキャンパスでは、学校によって独自のイベントが行われていることもあり、学校のことをよく知ることができる以前に「参加して楽しい！」と感じられるものが多いのも特徴です。

以前出かけた私立大学では、応援部、チアリーダー部、ブラスバンド部と一緒にパレードがあり、「私たちの大学へようこそ！」と見学者にエールを送っていました。雰囲気だけで判断してはいけませんが、大いに楽しんできてもらいたいと思います。大学の応援グッズや書類を入れるバッグ、ドリンク券などを配布する学校もあります。

事前申し込みが必要な大学や企画もあるので、希望大学についてはそろそろチェックを入れておきましょう。

一橋大学オープンキャンパス（昨年度）

- 大学紹介
学長挨拶・大学の概要説明
- 学部紹介
学部毎の概要説明やカリキュラム説明、模擬授業等
- 学生生活相談コーナー
入学試験や大学生活に関すること
(奨学金・寮・カリキュラム・留学など)
- 図書館見学
- キャンパスツアー
在学生によるキャンパス見学ツアー、受験相談会
- 大学紹介ビデオの上映

■オープンキャンパスは誰と行く？

大学の様子を見てくるという目的で、私もオープンキャンパスに出かけることはあります。友達と一緒に来ている様子を多く見かけますが、一人で来ている人もいます。また、親御さんと一緒に来ている姿もよく見かけますが、オープンキャンパスに親と行くことには、大きなメリットがあるように思います。親にだって皆さんと同じように学生だった時代があり、アドバイスをもらえる相手であるわけです。大人ならではの冷静な視点と一緒に学校を評価してくれる点も大きなメリットです。自分一人では気付けなかったことに注目でき、親と会話することで、自分が進路先に求めるものがより明確になることもあるでしょう。もしかしたら、自分では思いつかないような質問を、教授に投げかけてくれるかもしれません。

学費や大学に通う際の経費について考えるとき、保護者が同行していると助かる場面も多いことでしょう。受験生相談コーナーでは留学や奨学金などの相談もできます。入学金、授業料、留学する場合の必要経費など、今後必要なお金は多いものです。奨学金制度を利用する場合にも、親の考えを聞いておく必要があります。収入制限がある場合などにも、確認しやすいと思います。

中には「親には来てほしくないのに来たがって困る……」という人もいるかもしれません。ですが、自分の愛する息子・娘が決して短くはない学生生活を過ごす環境が気になる！というのが親心というもの。そんな気持ちも考えて、もし親が「一緒にいきたい」と言い出したのなら、できるだけ快く同行をお願いしましょう。オープンキャンパスをきっかけに、みなさんの進路について親子で一緒に考える機会も増えるでしょう。自分の将来にむけてどんな思いを持っているかを尋ねておくのも、いいかもしれません。

■事前準備は？

1 事前申し込み 大学によっては事前申し込みが必要なところもあります。主にネットでの申し込みで6月中旬以降に受け付けが始まるところが多いようです。先着順または抽選ですから、出かけてみたい大学は事前にチェックをしておきましょう。またオープンキャンパスへの申し込みは不要だけでも、学部・学科別のイベント参加には申し込みが必要なところもあります。理工系で多いようですので、注意しておきましょう。

2 進路指針ワークシートへの記入 進路指針P.73～75に「オープンキャンパス参加計画書」と「オープンキャンパス・チェックシート」が印刷されています。参加計画は事前申し込みと前後しますが、確認してきたい事項などを整理しておきましょう。チェックシートはオープンキャンパス当日にも持参し、項目をチェックしながら見学すると良いと思います。見学のポイントが明確になるはずで、複数の大学のオープンキャンパスに出かける場合は、チェックシートを必要分コピーして使用してください。

3 オープンキャンパス報告書への記入 進路指針P.76には「オープンキャンパス報告書」のページがあります。参加したオープンキャンパスの中から1校を選んで参加レポートとしてまとめてください。オープンキャンパスに参加して分かったこと、感じたことやこれから調べなければいけないことなどを簡潔にまとめておきましょう。文章化することでこれらのことが整理されて、明確化されていくはずです。

東京農工大学は農学部と工学部の2学部をもち、各学部の創基となる内務省農学修学場、蚕業試験掛が設置されて144年の歴史をもつ国立大学です。農学部は府中市にあり、元は東京大学農学部の演習林だった場所です。現在は、研究棟、講義棟の他、農場や馬場、乳牛舎などの設備が27万平米の緑豊かなキャンパスに設置されています。工学部はJR東小金井駅から徒歩5分の場所にあります。工学部の前身は繊維学部で、小金井キャンパスにある科学博物館(一般見学可)には、昔使用されていた繊維機械などが展示されています。

農学・工学に特化した大学なので、大学選びをする際、初めから農学・工学を目指して入学してくる学生が多いのが特徴です。

今年度の入学者は東京、神奈川、埼玉、千葉出身者が全体の7割近くを占めています。

学部・学科について

農学部 生物生産学科、応用生物科学科、環境資源学科、地域生態システム学科、共同獣医学科の5学科からなり、今年度新入生のうち女子学生は51%で女子学生比率が高い(学科により多少の変動があり、最も女子学生比率が高いのが共同獣医学科の60%)。卒業生の約6割が大学院へ進み、4割が就職する。就職者のうち約3割が官公庁、地方自治体に勤め、公務員比率が高い。

工学部 これまでの8学科から、生命工学科、生態医用システム工学科、応用化学科、化学物理工学科、機械システム工学科、知能情報システム工学科の6学科構成となる。工学部は一般的に女子学生が少ない学部だが、農工大工学部は他大学に比べて女子学生の比率が高いのが特徴。今年度新入生の25%が女子で、これは国立大工学部の中では最も高い女子占有率である。最も女子学生比率が高いのが生命工学科(現)で約6割を占める。機械系、電子・情報系は1割前後だが、同系統学科の女子学生は元気で活発な学生が目立つのが特徴だという。卒業生の約8割は大学院へ進学する。就職に関しては、学部・大学院によらず、一般企業が多い。

来年度のTOPICS

1 工学部の学科改組

【改組前】

学 科 名	入学 定員	募集人員		
		前期 日程	後期 日程	特別 入試
生命工学科	77	48	24	5
応用分子化学科	46	28	14	4
有機材料化学科	41	28	11	2
化学システム工学科	35	20	12	3
機械システム工学科	116	77	34	5
物理システム工学科	56	33	18	5
電気電子工学科	88	56	26	6
情報工学科	62	36	21	5
学 部 計	521	326	160	35



【改組後】

学 科 名	入学 定員	募集人員		
		前期 日程	後期 日程	特別 入試
生命工学科	81	46	25	10
生体医用システム工学科	56	60	20	6
応用化学科	81	44	29	8
化学物理工学科	81	44	29	8
機械システム工学科	102	55	37	10
知能情報システム工学科	120	65	43	12
学 部 計	521	284	183	54

改組後も入学定員の増減はないが、前期募集枠は42減、後期募集枠は23増、特別入試募集は19増となる。今後も、他の国公立大同様、AO・推薦入試募集枠は拡大が見込まれる。

2 新教養教育体制がSTART

入学試験とは直接関係しないが、これまでに比べて、よりコミュニケーション力、異文化理解力を育む科目群を用意する。いわゆる教養教育は学部1年、2年次に行われるが、新体制では学部後期(3年次)にも、技術者倫理、知的財産権・特許法、Academic Reading、Academic Communicationなど、将来の研究者、技術者に必要な能力を身に付ける教育を展開する。また、西東京三大学連携(※)をより強化し、マーケティング、ベンチャービジネス論など他大学の教育資産を活用した講座や基礎ゼミなどを展開していくことを計画している。

3 西東京三大学連携をより強化

東京農工大、東京外国語大、電気通信大では、平成28年度より、各大学の特性を活かし、学部生、大学院生が分野の枠組みを超えて学ぶ環境を提供している。異なる専門分野を持つ学生が協働して課題解決に取り組む実践的な教育の実施を目的としている。次年度には、共通英語化科目を30科目開講する。

4 その他

クォーター制を導入し、2学期と4学期は留学推奨期間とするなど、留学支援体制をさらに強化する。

農学部国際プログラム新設や、工学部で外国人学生に対応した英語講義をより充実させ、(一部の)専門科目の講義を英語で行う。

入試選抜方法

入試区分	選抜区分	実施学部	センター試験	概要 (2018年度入試)
一般入試	前期日程	農学部	課す	センター試験(5教科7科目) 900点 個別試験(理科2科目、英語、数学) 700点
		工学部	課す	センター試験(5教科7科目) 900点 個別試験(理科2科目、英語、数学) 550点
	後期日程	農学部	課す	センター試験(5教科7科目) 900点 個別試験(英語) 400点
		工学部	課す	センター試験(5教科7科目) 650点 個別試験(理科1科目、数学、英語) 650点
特別入試	ゼミナール入試(AO入試)	農学部 (環境資源科学科)	課す	第1次選考(書類選考・志望理由書・活動報告書・調査書) 第2次選考(ゼミナール参加課題レポート、面接) 最終選考(センター試験得点7割が基準点)
	SAIL入試(AO入試)	工学部 (化学物理工学科) (生体医用システム工学科) (知能情報システム工学科)	課さない	第1次選考(書類選考・志望理由書・特別レポート・調査書) 第2次選考(プレゼンテーション、面接)
	推薦入試	農学部	課す	センター試験得点で選考 (国語、英語を100点に換算した700点満点)
		工学部 (生体医用システム工学科を除く)	課す	第1次選考 工学部推薦入試は従来実施されていた推薦入試が廃止となり、学科改組と同時に新規に実施されます。新しい選考方法は7月に発表される予定です。 第2次選考 最終選考
	帰国子女	農学部 工学部	課さない	省略
	社会人	農学部	課さない	省略
	私費外国人留学生	農学部 工学部	課さない	省略

※次年度募集要項は各大学とも7月中に発表されます。概要は今年度のものを参考に掲載しています。

高大連携事業

春告草紙上でもたびたび取り上げているが、高校生を対象に様々な科学教室、体験教室を行っている。その中でも次の各事業は、大学での研究の仕方などを体験し、進路探求の面でもメリットの多いプログラムだ。

IGSプログラム IGSとは、Introduction to Global Science の略。将来、科学の専門分野で活躍する研究者、技術者を目指す高校生のための、理科系の実験、実習、グループワーク体験プログラムである。今年度は、夏休み、冬休み、春休み期間にそれぞれプログラムが用意されていて、夏休みのプログラムは6月1日から募集が始まった。対象は高校2年生。本校の卒業生で参加した生徒もいて、彼女は現在、農学部の2年生である。入試にあたっての特典などはないが、それだけに純粋にサイエンスに興味を持つ高校生との交流から得られる刺激は大きい。冬休みは1泊2日、春休みは2泊3日で行われる。<http://web.tuat.ac.jp/~igsprog/page/require.html>

GIYSEプログラム 農工大で新規に立ち上げたプログラム。将来、グローバルに活躍しうる傑出した科学技術人材を育成する教育プログラムである。このため、大学内にGSC (Global Science Campus) を立ち上げ、都道府県教育委員会と連携して地域ぐるみで生徒の才能育成に取り組む。詳細については不明だが、対象は高校1年生で、高2進級時に第2次選考があり、高3時には国内・国際学会等での発表もプログラムされている。

東京グローバルスクール 西東京三大学連携事業の一つで、夏休み中に2回実施される。対象は、高校1年生、2年生。今回は、「Good Health and Well-being (すべての人に健康と福祉を)」をテーマに選び、マラリアや結核、そして HIV などの感染症、交通事故や環境汚染による健康被害など、健康と福祉についてさまざまな視点から学修し、ディスカッションを通して分野を横断する協働について実践的に学んでいく。

★オープンキャンパス申し込み受付中★ 募集が6月1日から始まった。すぐに定員に達するイベントもあるので、希望者は早く申し込みを済ませよう。

他大学も同様である。特に千葉大学はすぐに定員に達するので、大学HPで確認しよう。